

2026年国際レーザレーダ会議の日本開催が決定

酒井 哲

気象研究所（〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1）

Japan won the election to host the 32nd International Laser Radar Conference in 2026

Tetsu Sakai

Meteorological Research Institute, 1-1 Nagamine, Tsukuba, Ibaraki 305-0052

(Received March 31, 2025)

The International Coordination Group on Laser Atmospheric Studies (ICLAS) committee has decided to host the 32nd International Laser Radar Conference (ILRC32) in Japan in 2026. The conference will be held at the International Conference Center Hiroshima from 5 to 10 July 2026. The LRSJ members are encouraged to support the preparation of the conference.

キーワード：国際レーザレーダ会議、日本開催、国際交流

Key Words: International Laser Radar Conference, Held in Japan, International exchange

今年2月3日の学会メールニュースでもお知らせしたように、2026年開催予定の第32回国際レーザレーダ会議(ILRC32)の日本開催が決まりました。この決定は1月29日に行われたレーザー大気研究に関する国際調整グループ(International Coordination Group on Laser Atmospheric Studies, ICLAS)委員会における審査と投票によるものです。ILRC32開催に立候補したのは日本とアメリカ(モンタナ)でしたが、投票の結果、6対3で日本での開催が決定しました。日本での開催は、1974年仙台(ILRC6), 1994年仙台(ILRC17), 2006年奈良(ILRC23)に次いで4回目になります(過去の開催地は<https://iclas-ilrc.org/international-lidar-radar-conferences/past-ilrcs/>で見ることができます)。本学会の学会員である九州大学の岡本創教授を大会委員長とし、現在実行委員会を編成して準備を進めています。

ILRC32の開催期間は2026年7月5~10日、会場は広島国際会議場を予定しています。会議場はユネスコ世界遺産である原爆ドームから徒歩約10分と近く、エクスカーションでは厳島神社(こちらも世界遺産)へのツアーを予定しています。海外からの参加者には、研究面での交流だけでなく、日本の歴史や文化を知ってもらう良い機会になると想っています。本学会員の皆さんからも、海外・国内参加者との交流を深めるイベント等として、良いアイディアがあればご提案頂きたいと思います。また、知り合いの研究者に参加するように声をかけて頂けると有り難いです。

国際会議に参加するメリットとして、海外の研究者と対面で話せる点があります。会議の休憩時間等に、研究者と話すことで、論文やオンライン会議からは得られない貴重な情報を得ることは良くありますし、自分の研究をアピールして共同研究や留学のチャンスを得ることもできると思います。企業展示に出展参加される企業の方にとって、海外研究者に製品を宣伝して販路を広げるチャンスになると思います。研究者としての僕の経験では、論文を読んで知っていた海外の著名な研究者とバンケットのテーブルに同席して話し、その後メールで情報交換するようになりました。(実は、その席でその研究者に「隣に座っているのは娘さんですか?」と聞いたところ、隣の女性から真面目な顔で「いえ、共同研究者です。」と言われて恥ずかしい思いをしたのが打ち解けるきっかけでした。)また言い過ぎかもしれません、研究発表を通してその分野の重鎮に自分の研究内容をよく知ってもらうと、投稿した論文が通りやすくなることもあるかもしれません。一方で、過去に海外のILRCに参加された方にとっては、その時の開催者や研究者の方々への恩返しの機会にもなると思います。

今後の準備にあたり、学会員の皆さんにご協力をお願いすることもあると思いますが、その際はよろしくお願いします。